様式 C-19

# 科学研究費補助金研究成果報告書

平成　23　年　3　月　15　日現在

機関番号：18001
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2010
課題番号：20592629
研究課題名（和文）　沖縄の歴史と文化に根ざした地域看護活動に関する研究
研究課題名（英文）Public health nurses' service based on Okinawan culture and history.
研究代表者
宇座　美代子（UZA　MIYOKO ）
琉球大学・医学部・教授
研究者番号：00253956

研究成果の概要（和文）：
本研究では、保健師マインド育成プログラムを検討するために保健師・看護師・住民に沖縄の伝統文化に関連した支援内容等を調査した。保健師マインドを育成するためには、保健師のアイデンティティが確立され始める保健師経験 3 年目に焦点を当て、沖縄の伝統文化に関連した知識や対応技術等の内容を中心に、自らの「経験」を語ることによって「自信」に繋がるプログラム構築の必要性が示唆された。

研究成果の概要（英文）：
Public health nurses' (PHN) mental training program is necessary for young PHNs. We interviewed health professionals on their service based on Okinawan culture and history. The results suggest that their confidence is derived from reflections of their experiences and identity and PHNs' mental will be developed based on Okinawan culture and history. Therefore it is important that the identity and PHNs' mental training program based upon the Okinawa culture and history.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| 2008 年度 | 1,300,000 | 390,000 | 1,690,000 |
| 2009 年度 | 800,000 | 240,000 | 1,040,000 |
| 2010 年度 | 700,000 | 210,000 | 910,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総　計 | 2,800,000 | 840,000 | 3,640,000 |

研究分野：医歯薬学
科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：沖縄、文化、死生観、方言、看護援助、保健師、アイデンティティ、継続教育

１．研究開始当初の背景

保健医療福祉制度がめまぐるしく変化する中、市町村合併や保健師の分散配置が進み、市町村で働く保健師の働き方も大きく変わってきた。保健師は社会の変化に伴い、保健分野にとどまらず福祉分野などにも活動の場が広がっている。一方、従来の地区分担制から業務分担制が中心となり、業務内容も年々多岐に渡り、保健師本来の役割（原点）に立ち戻る余裕が少なくなっている。これらのことから現場の保健師マインドが揺らいでいるともいわれている。

また、平成 20 年度には看護系大学が 160 校を超えるといわれ、保健師学生の実習場が不足しているところもあり、保健師マインドに触れる機会が減少し、保健師教育の質の確保が問われている。このような激変の時代にあって、時代が変わっても変わらない保健師マインドについて考える必要があると考えた。

保健師マインドは「保健師活動がおもしろい」と感じるところから生じるものと考える。保健師活動のおもしろさの本質は、住民一人ひとりを大事にした住民とともに進める活動であり、地域の歴史や文化に根ざした活動であると考えている。

２．研究の目的

本研究では、地域の歴史や文化に根ざして展開してきた沖縄の地域看護活動を概観し、保健師マインドの構築に向けて、今後の保健師の継続教育について検討を加えたい。

３．研究の方法

本研究では、1 年目に地域の歴史や文化に配慮した保健師の活動内容や保健師マインドの育成方法などについて聞き取り調査を実施する。2 年目は、調査結果のデータ入力・集計を行うともに、必要に応じて追加調査を行う。3 年目は、地域の歴史と文化に根ざした地域看護活動と保健師マインドの育成との関連を含めた継続教育のあり方を検討する。

４．研究成果

(1)「沖縄の歴史や文化に配慮した地域看護活動の内容や保健師マインドの育成方法」について、沖縄県離島の宮古島市８名、八重山保健所２名、与那国町の保健師１名へのインタビューを実施した。その結果、保健師は地域の伝統的な祭りに配慮した年間計画を作成して活動し、先輩保健師の経験や考えてきたことを聞き、一緒に活動・議論することによって保健師マインドを継承させてもらっていると感じていた。しかし、保健師マインドが意図的に育成されているわけではないことが明らかになった。

(2)「沖縄の歴史と文化と看護に関する調査」では、沖縄の方言や伝統的な考えである死者儀礼ヌジファ（遺族が病院等で死亡した死者の魂を家に連れて帰る儀礼）等に関連した看護援助の有無とその内容を調べた。対象は沖縄県看護研究学会（平成 21 年 1 月開催）に参加した看護者 350 名で回収数は 225 名（回収率 64.3%）であった。年齢未記入を除く 217 名を分析した。結果は女性 86.6%、男性 13.4%、平均年齢 43.3 歳であった。看護職平均経験年数 17.8 年、県外出身者 10.1%であった。

①看護を展開する上で沖縄の方言に関連し

た困難を経験したことがある人は 43.5%で、その割合は 30 歳代の県外出身者に多く、その内容には「難聴と思っていたら方言で通じた」という記述がみられ、今後の課題が明らかになった。

②ヌジファ等沖縄の伝統的な考えに関連した看護援助を経験したことのある人は48.8%であった。20～30 代では経験者の割合が減っていた。その内容には「死亡退院時には 7～8 割がヌジファを行う」「ヌジファは沖縄的文化であり他患者に支障がない範囲で認めている」等の記述があった。また、「死亡退院時のヌジファには、他患者に気づかれないように」行うなど、患者・家族の意向に添えるように対応していた。

③これらのことから、看護継続教育では地域特有の方言教育の必要性が示唆された。また、沖縄の伝統的な考えに関連したヌジファ等に看護者は可能な限り対応していたが、このような地域文化を伝承する機会が減りつつあることが示唆された。地域文化を尊重した看護援助には基礎教育や継続教育における地域文化に関連した知識の伝達が重要であると考えられた。

(3) 「沖縄の中高年のこころの健康とユーマール」の調査では、こころの健康とユイマールは関係があると回答した人は 78%であった。こころの健康は「挨拶」「声かけ」「おしゃべり」と関連していると考えられ実行もされていた。また、伝統行事が大事なコミュニケーションになっているという記述があった。

「沖縄県の 60 歳以上の出産体験者が行った妊娠・出産の風習」に関連した調査では、ヒヌカン（火の神）との関わりが数多く述べられていた。ヒヌカンは姑から嫁に引き継がれ、家族の絆を深め、特に女性にとって精神的な心の支えになっていた。

これらの結果は各学会等で発表した。

(4)「保健師マインドの育成に関連した保健師のアイディンティの確立過程」に関するインタビューでは、27 名の中堅以上の保健師に半構造的面接調査を行った。保健師のアイデンティティとは、自分の言葉で「これが保健師の仕事だ」と語れる状態をアイデンティティが確立されたと捉えた。インタビューの内容分析の結果、保健師として就業後は、保健師であることの意味や保健師らしさを模索しながら、個別支援や集団支援などで「継続的な支援が自分の自信に繋がる」経験を通して「これが保健師の仕事だ」と自分の言葉で保健師について語ることができていた。この時期は保健師経験 3～4 年目で 37.9%、6 年目までに 79.3%の保健師が自分の言葉で「これが保健師の仕事だ」と語れる状態に至っていた。すなわち保健師のアイデンティティは保健師経験 6 年目までには確立されることが示唆された。それができる職場環境には先輩保健師の存在が重要な要因になっていた。

また、保健師が支援した沖縄の文化に関連した内容については、ユタ（霊的職能者）、ユイマール（助け合い）、方言、地域の行事、横のつながり、地域の力、家族力の弱さ、見守り、思いやり、信じる力、オトーリ（宮古島における飲酒方式の一つ）、民間療法（ニノ）、戦争体験の後遺症、後継ぎ、控え目、謙遜、なあなあ（なれあい）等の事柄について、それぞれの長所・短所が語られた。このような地域文化に密着した事柄は、ケース支援や地域づくりに役立てていた。

(5) 地域の歴史と文化に根ざした地域看護活動と保健師マインドの育成

保健師マインドは、意図的に育成されてい

るわけではないことが明らかになった。今後、意図的な保健師マインドの育成のための教育プログラムが必要であると考える。地域の歴史と文化に根ざした地域看護活動ができる保健師マインド育成プログラムの内容には、地域の方言や伝統文化に関連した知識や対応技術が重要であり、本研究で得られた成果が活用できると考える。

保健師マインド育成プログラム実施対象者は、保健師のアイデンティティが確立され始める保健師経験3～4年目に焦点を当てる。プログラム内容は、自らの「変化」を振り返り「自信」に繋がる「経験」を表現する場を設定し、経験の質が高められるような関わりができるプログラムとする。このプログラムを通して保健師のアイデンティティの確立が図られ、それとともに保健師マインドの育成が可能になると考える。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計０件）

〔学会発表〕（計７件）
①宇座美代子、古謝安子、小笹美子、當山裕子、儀間繼子、国吉緑、仲村美津枝、大嶺ふじ子、玉城陽子、眞榮城千夏子：沖縄の歴史と文化に関する調査研究―沖縄特有の死生観との関連―．第 29 回日本看護科学学会学術集会：415，2009.11.28
②儀間繼子，宇座美代子，仲村美津枝，大嶺ふじ子，玉城陽子，古謝安子，小笹美子，當山裕子：沖縄県の 60 歳以上の出産体験者が行った育児に関する風習について．第 29 回日本看護科学学会学術集会講演集：319，2009.11.27
③田場真由美、宇座美代子：沖縄の中高年のこころの健康とユイマールに関する研究―第２報　ユイマールとこころの健康と実践行動―．第 14 回日本看護研究学会九州・沖縄地方会学術集会プログラム抄録集：82，2009.11.7
④儀間繼子，宇座美代子，仲村美津枝，小笹美子，古謝安子，當山裕子，玉城陽子：沖縄県の 60 歳以上の出産体験者が行った妊娠、出産の風習．第 14 回日本看護研究学会九州・沖縄地方会学術集会　プログラム・抄録集：81，2009.11.7
⑤田場真由美、宇座美代子：沖縄の中高年のこころの健康とユイマールに関する研究―第 1 報―．第 68 回日本公衆衛生学会総会抄録集　奈良県：532，2009.10.23
⑥宮城瑛利奈、宇座美代子、當山裕子、古堅知香子：先輩保健師からのメッセージ―新任保健師のアイデンティティの確立に向けて―．　第 68 回日本公衆衛生学会総会抄録集 奈良県：590，2009.10.22
⑦宇座美代子、小笹美子、當山裕子、古謝安子、国吉緑、赤嶺伊都子、田場真由美：地域の歴史と文化と看護に関する調査研究―方言との関連―．　第 68 回日本公衆衛生学会抄録集 奈良県：285，2009.10.22

６．研究組織
(1)研究代表者
宇座　美代子（　UZA MIYOKO　）
琉球大学・医学部・教授
研究者番号：00253956

(2)連携研究者
田場　真由美（TABA MAYUMI）
沖縄県立看護大学・講師
研究者番号：90326512

儀間　繼子（GIMA TSUGIKO）
琉球大学・医学部・助教
研究者番号：80315473

當山　裕子（TOYAMA YUKO）
琉球大学・医学部・助教
研究者番号：90468075

小笹　美子（OZASA YOSHIKO）
琉球大学・医学部・講師
研究者番号：10295313

古謝　安子（KOJYA YASUKO）
琉球大学・医学部・講師
研究者番号：30305198

平良　一彦（TAIRA KAZUHIKO）
琉球大学・観光産業科学部・教授
研究者番号：40039540

(3) 研究協力者
宮城　瑛利奈（MIYAGI ERINA）
琉球大学・大学院生